

平成30年 2月14日

平成30年

第2回教育委員会定例会会議録

大田区 教育委員会室

平成 30 年 2 月 14 日（水曜日）午後 2 時から

1 出席委員（6名）

小 黒 仁 史		教育長
鈴 木 清 子	委 員	教育長職務代理者
芳 賀 淳	委 員	
三 留 利 夫	委 員	
弘 瀬 知江子	委 員	
後 藤 貴美子	委 員	

2 出席職員（9名）

教育総務部長	水 井 靖
教育総務課長	森 岡 剛
副参事（教育政策担当）	北 村 操
学務課長	杉 山 良 樹
指導課長（幼児教育センター所長兼務）	増 田 亮
副参事	田 井 俊 行
学校職員担当課長	鈴 木 清 貴
教育センター所長	柿 本 伸 二
大田図書館長	山 中 秀 一

3 日程

日程第 1 部課長の報告事項

日程第 2 議案審議

第 3 号議案 平成 28 年度おおた教育振興プラン 2014 の事業実績と評価
について

~~~~~  
(午後 2 時開会)

#### ○教育長

ただいまから、平成30年第 2 回大田区教育委員会定例会を開会いたします。

本日は傍聴希望者がおります。

委員の皆様には傍聴許可を求めます。許可してよろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

#### ○教育長

傍聴を許可いたします。

(傍聴者入室)

## ○教育長

大田区教育委員会傍聴規則第7条により、傍聴人は、議場における言論に対して批評を加え、または拍手その他の方法により公然と可否を表明することは禁止されております。ご協力をよろしくお願いいたします。

それでは、これより審議に入ります。本日の出席委員数は定足数を満たしていますので、会議は成立いたします。

まず、会議録署名委員に弘瀬委員を指名いたします。よろしくお願いいたします。

続いて、本日の日程第1について、事務局職員の説明を求めます。

## ○事務局職員

日程第1は、「部課長の報告事項」でございます。

## ○教育長

それでは、部課長の報告をお願いいたします。

## ○指導課長

私からは2点報告をいたします。着座にて失礼をいたします。

まず、第9回中学生東京駅伝大会について報告をいたします。資料がございます。

2月4日（日）、午前は女子、午後は男子の競技が、味の素スタジアム及び都立武蔵の森公園特設周回コースで行われました。1年中で1番寒い時期に実施される本大会ですが、競技中には太陽が顔を覗かせ、日差しもありましたので、好条件の下で走ることができたと思います。

「3 競技結果」をご覧ください。都内23区26市1町の合計50チームが、各地区の思いとたすきをつなぐ本大会で、女子が第8位、男子が第7位、総合で第7位と健闘いたしました。10位以内が団体での敢闘賞ということでございますので、男子・女子ともに入賞ということは、これは第1回大会以来のことでございます。

さらに女子は、第6位だった昨年度の記録を上回る過去最高記録だったことから、特別賞も受賞することができました。

距離別で、個人第4位から10位までに授与される敢闘賞、田中優杏さん、保科源さん、外間礼那さんの3名が受賞しております。

男子はフルマラソンと同じ42.195キロを17人で、女子は30キロを16人で走りました。大田男子チームのタイムは2時間23分44秒ということですので、リオデジャネイロオリンピック、マラソン日本代表の北島寿典選手のタイム、2時間25分11秒より早いということになります。この距離を、このタイムで、お一人で走り切るオリンピック選手の身体能力の高さ、すごさに驚くばかりでございますが、13歳、14歳の中学校2年生の子どもたち17人が、力を合わせてそのスピードと同じペースでの走りをしてくれたということになります。当日を迎えるまで、六郷土手で、11月から毎週のように練習を重ねたことが結果につながった大会となりました。

大田区の代表選手たちが、ともに走った仲間とこの日を忘れることなく、この経験をこれからの人生の糧にさせていただきたいと願っているところでございます。

大森第八中学校長、竹内彰泰団長、南六郷中学校長、菅原淳一総監督、大森第七中学校長、鶴貝秀明女子監督、御園中学校長、相佐光慶男子監督をはじめ、18名の大田区立中学校の教員がスタッフとなり、大田区チームの指導にあたっていただきました。日々の授業と部活動の指導に加えて毎週の駅伝の指導もしていただきましたので、大変ありがたいことだなと感謝を申し上げたいと思います。

さらに、当日は、大田区立中学校PTA連合協議会、美濃部会長を筆頭に、多くの保護者や地域の皆様が応援に駆けつけてくださいました。「頑張れ大田っ子」の登り旗も応援席や沿道に数多くはためいておりました。

さらに、ご協力により、大田区公式PRキャラクター「はねびよん」も、たすきをつなぐエリアの脇で、男女合わせて4時間以上、寒空のもと、ずっと大田チームの応援をしてくれました。私が見たところ、大田区応援団の地区への思いと応援は、第1位だったのではないかなと思います。

なお、ケーブルテレビネットワークで生中継され、スタジアム内にも実況が流れていた本大会でございますが、解説はロサンゼルスオリンピック女子マラソン代表の増田明美さんと、全国中学校体育連盟会長の新宮領毅雪谷中学校長が務めておりました。スポーツ解説者としておなじみの増田明美さんと軽妙なトークで、各地区や中学校での取り組み、コーチや選手たちの様子や気持ちを解説していただきました。

ところで、この東京駅伝の第1回大会、大田女子チームのアンカーを務めたのが、インカレ女子800メートルで日本歴代2位、日本学生新記録をマークした北村夢選手でございます。東京2020オリンピックでの出場や活躍が期待される選手の一人でございますが、その北村選手が、母校の矢口中学校でランニング教室を1月16日に開いており、中学生たちに直接走り方の指導をしていただいております。

今年度の大田女子チームのアンカーが、ランニング教室に参加した感想を述べていますのでご紹介を申し上げます。

「私は、北村選手の走りを見て度肝を抜かれました。足のさばきがとてもきれいで、足の回転も見たことがないくらい早かったのでとても感動しました。日本のトップアスリートの走りには迫力、輝きがありました。この経験を生かして自分もよい成績を残すことができるよう、日々努力をしていきたいです。」

昨年度の大田女子チームのアンカーもランニング教室に参加しております。

「走っているときに上半身がほとんどぶれていないことに驚きました。上半身がぶれないように走るには、体幹が必要だということを知ることができました。これから、陸上を続けていく中で生かしていきたいと思います。」

二人の感想から、先輩の活躍が、子どもたちにいい刺激を与えることがわかります。今年度の大田チームの約8割が小学生駅伝大会の経験者であったことも含め、本区の体力向上政策の一環として、この東京駅伝大会も活用してまいりたいと考えております。

続きまして、おおたの教育研究発表会について報告をいたします。資料がございます。昨日、2月13日（火）、池上会館集会室で開催いたしました。学校関係者、区民を合わせて275名の皆様にご参加いただきました。そのうち3分の1が保護者や区民の皆様ということでございますので、教育委員会・学校・区民が一堂に会して家庭教育研究推進校、そ

して教育研究推進校が発表し、ご意見をいただく場となっているところでございます。

全体会では私から、5年計画の4年次を迎えている「おおた教育振興プラン2014」の進捗状況などについてお話をいたしました。全体会では、今年度、新たに指定した家庭学習研究推進校の池上第二小学校、馬込中学校の2校の実践報告もしていただきました。

家庭学習と確かな学力の定着には、一定の相関関係があることは各種調査で明らかになっていること、学校の取り組みの家庭への周知方法、家庭学習のやり方を伝える方法、宿題の出し方の工夫、子どもが家庭学習の内容を選択するなどの取り組みをしていることを報告していただきました。来年度発表ということになるのですが、期待感が高まる報告をいただきました。

分科会では、教育研究推進校の研究発表が行われました。学力の向上分科会、体力の向上分科会、思考力・判断力・表現力の育成分科会、自己肯定感の育成分科会の4つの分科会に分かれて発表をしていただきました。資料をめくっていただきながら、簡単に研究について触れたいと思います。

出雲小学校には「保護者・地域と連携した生活・学習習慣の改善と教員の授業力向上」をテーマに研究をしていただきました。あらゆる空間、時間を使って学力向上に取り組めたということでございます。例えば、ちょっと早目に登校してしまった子どもを、ちょっと中まで入れて本を読ませて待たせるですとか、階段1段1段にかけ算九九ですとか、各教科で覚えなくてはならない基礎的な内容が貼ってあるとか、そのようなあらゆる場を使って学力向上、そして先生方の授業力向上に取り組んだという研究でございました。

松仙小学校には『「楽しい」学校の創造～生活・総合的な学習の時間の「楽しい」授業の創造～』ということで、公立プライド、公立として学校のあり方、そして、楽しいという言葉キーワードに生活科、総合的な学習で、実践をしていただいた内容を発表していただきました。

糺谷小学校は研究主題「運動の楽しさや喜びを味わい 学びを実感できる体育学習」ということでございます。ここ数日、平昌オリンピックの選手のコメントを聞かせていただいても、「楽しんできます」または「とても競技を楽しめました」ということをコメントされている選手が多いなという実感があるのですけれども、過去においては、とにかく根性論。努力して、汗を流して試練の道を行くというような体育のあり方が、随分変わってきたなということ、改めてこの研究発表で感じたところでございます。スポーツに関わる楽しさ、喜び、価値、そんなものを追求していただいた研究でございました。

徳持小学校は『「する子 みる子 支える子 知る子の育成」～体育科「体づくり運動」・オリンピック・パラリンピック教育を通して～』ということで、研究実践を重ねていただきました。スポーツ振興法には、スポーツには3つの関わり方がある、するスポーツ、みるスポーツ、支えるスポーツと、これはよく聞くことですが、そこに徳持小学校は、スポーツのことを知る、知ることによってさらに興味を持たせ、する、みる、支える子を増やすと、上手にこのスパイラル構造を考えたというような実践でございました。当日、本当に子どもたちが楽しそうに生き生きと、体づくり運動に取り組んでいる姿が印象的でございました。

大森第五小学校、これは2月2日に研究発表をしたばかりでございます。『「根拠・理由・主張」を大切にした指導を通して、思考力・表現力を育てる～国語科・社会科・生活

単元学習を通して～』ということでございます。何か意見や感想を言う、その背景、理由をきちんと固めた上で自分の考えを述べる。つまり、曖昧ではなくて、ちゃんと理由を示して話をする、こんなことに国語科、社会科、生活単元科学習を通して取り組んだというものでございます。ペア学習、トリプル、3人で話をする机の位置関係なども、新たな提案があったかなということを感じております。

赤松小学校は「学びを創る～E S Dの充実を通して～」を研究主題にしており、持続可能な社会をつくるためのE S D教育ということで、この学校はこの取り組みも含めて、今年度、E S D小学校賞を受賞したということでございます。本区の小学校におけるE S D教育の推進は、この赤松小学校が中心となり、今後広がっていくことを予感させる研究発表でございました。

糺谷中学校は『「こころ豊かな」生徒の育成～体験的な活動を通して、自己肯定感や進んで社会に貢献する心や態度を養う～』という研究発表でございまして、子ども同士が認め合う、さらには先生が、認める・称賛する言葉がけをするということを地道に取り組んだ結果、自己肯定感が飛躍的に向上したと。やはり関わり方を変えると、子どもたちは自分の良さに気がつくのだなということ、改めて確認できた研究発表でございました。

池上第二小学校の研究主題は「伝えよう受けとめよう対話で高まる読みの力～学校図書館利活用・I C T機器活用もしながら～」ということでございます。ビブリオバトルによる本の紹介などの工夫があったり、どの教室もI C T機器、本年度入れさせていただきましたスライドレール式電子黒板、さらには書画カメラを存分に活用した授業公開だったという印象がございます。簡単に分科会で発表があった概要についてお話をさせていただきました。

この、おおたの教育研究発表会に参加した先生方におかれましては、研究の成果や取り組みを自校に持ち帰っていただき、成果を広めてもらうことを期待しておりますし、参加していただきました保護者・区民の皆様には、大田がこのような研究を進めているのだということをご理解いただく一つの機会になったかなと思っております。

私からは以上でございます。

## ○教育長

ただいま、中学生の東京駅伝及びおおたの教育研究発表会のご報告がありました。

ただいまの報告につきまして、ご意見、ご質問はありますでしょうか。

## ○芳賀委員

2月13日の池上会館は行けなかったのですが、このうちの幾つかの研究発表はそれぞれの学校で拝見しております。

先ほど、2月13日は8つの発表を全部まとめてやったと書いてありますが、それぞれの研究発表会というの、委員として、見に行くのを非常に楽しみにしている企画なのです。もちろん、授業そのものも大変よかったと思います。近いところでは2月2日の大森第五小学校に行ってきたのですが、ここは授業参観が終わった後の発表のところ、他校と比べると工夫していらっしゃったなと思っております。要するに、授業が終わった後、体育館に集まって講演会をずっと聞くというスタイルもあるのです。そういうスタイ

ルのよさもあるのだとは思いますが、参加している先生方がずっと聞いているだけということになってしまうのです。大森第五小学校のほうは各分科会に分かれて、皆さんが積極的に発言する。しかも、しゃべる時間の不足を補うために、大きな付箋にいろいろとコメントをして貼り付けるというような、そういうこともやって、相互の意見交換ができやすくなる場所もあって、ああいう試みは非常に有意義ではないのかなど。せっかく遠くから来てくださっている先生方もいるのですから、聞くばかりで一言もしゃべらずに帰るのももったいないなと常々思っていたので、ああいう機会が設けられたのはいいのではないかと思います。

授業を見ての感想なのですが、先ほど指導課長が言われているように、私の印象としては、特に今年度の後半くらいから、スライドレール式電子黒板を使った授業を本当によく見ました。先生方もなれて、授業で使いなれてきたという表現が正しいですかね、そういう使われ方をしてきていて、確かにあれは見やすいんですね。あと、黒板にいちから書く手間がかなり省ける場所があったりしまして、いい感じで使われていて、いい設備投資がなされているという印象を持っておりました。

以上でございます。

#### ○教育長

ありがとうございました。

他にございますでしょうか。弘瀬委員。

#### ○弘瀬委員

東京駅伝のほうに参加してまいりました。9時半開会式ということだったので、9時過ぎには行っておりましたけれども、大田の先生をはじめ、保護者の方、もうたくさんの方が応援にみえていらして、寒い中、開会式まで、じっと皆さん待っていらっしゃいました。午前中はスタジアムを離れまして、周りを走る沿道で少し応援させていただきました。選手たちの息遣いが、もろに伝わってくる近い距離のところで応援させていただきました。気がつくとき大きな声で応援していました。

午後からは、スタジアムのほうで応援させていただきました。吹奏楽の演奏、日体大のチアリーダーの人たちの演技やブラスバンドの人たちの演奏、和太鼓の人たちの演奏など、それぞれの応援があって、すばらしいものだと感じました。先ほど指導課長からお話がありましたように、一丸となって、その会を盛り立てて、そして、最後の50チーム目がゴールするまで皆さんが一所懸命応援なさっていた姿に感動を覚えました。ぜひ、今後とも続けてもらいたいと思いました。

#### ○教育長

三留委員、お願いします。

#### ○三留委員

中学校駅伝については行くことができなかったのですが、今、お話を聞いてちょっと感想めいたこととお話させていただきたいなと思います。

男女によって順位等に違いがあるのですけれども、どちらも記録が伸びて、やはりそれぞれが、子ども一人一人が目標をもってやってきた成果かなと、それが集団としてのこういう成果につながったのではないかなと思います。出身者が全国レベルで活躍しているというのも本当に頼もしい限りで、またこういう人が、選手がどんどん出てもらうといいなと思います。

やはりお話があったのですけれども、体育にかかわらず、校長、教員がしっかり体制をつくって支援をしているというのがすばらしいところだと、もちろんPTAの人たちが応援するというのもそういうことなのですが、そういう人たちがあって選手があるのだろうということも感じました。

小学校の駅伝と中学校の取り組みと大変連携しながらできているのではないかという感じを受けました。そういう中で、体力・運動能力向上の気運が高まり、取り組みを各校で進められています。例えば、マラソン週間だとか、全校マラソン集会などの取り組みです。

それから研究のほうにつきましては、四つの分科会の研究なのですが、それぞれ現代的な課題をしっかりと捉えて研究を進めているなという感じがいたします。一つ一つについてお話をすることはやめておきますけれども、それぞれ各校の実態課題に尽くして研究しているなということを感じました。私も大田の研究会、幾つか出させていただきましたけれども、全体に学校体制でよく取り組まれているなという感じがいたします。特徴的なことで私が感じていることは、中堅・若手の先生が、結構役割をもって、いろいろ活躍をしている姿を見まして、この校内研究自体が中堅・若手育成の場になっているのではないかなと考えるところであります。

今後、また、研究が続くわけですけれども、ぜひこういった実践を参考に、私が考えることはやはり教育界の趨勢というのがもちろんあるのですが、自校の子どもの実態、それに即して目指す子ども像、それをしっかり立てていただいて、その目指す子ども像をつくるためにどういう論理が必要なのか、論理をしっかり構築して、論理に基づいて授業実施をするという、より実証的な校内研究というのをぜひ進めていただきたいなと思っています。

以上です。

## ○教育長

では、後藤委員。

## ○後藤委員

後藤です。私も研究発表会のほうに行かせていただきました。

まず、大森第五小学校では、先ほど芳賀先生がおっしゃられたように、研究発表会の授業の後に各分科に分かれて、各教室で、授業を行った先生のお話や質問を伺うという時間があったのですけれども、そこで感じたことは、教員の皆様がとても活力があふれているように感じました。若い先生も中堅の先生もご年配の先生もまざっているグループだったので、質問の内容がとても前向きで、さらに自分の中に何か一つでも持ち帰って、それをまた落とし込んで、学校で反映させようというような意気込みがとても感じら



れた分科会でした。

それから羽田小の研究発表会では、人権について、都教委のほうからも何名か委員さんが見えになれておりまして、いろいろとお話を聞かせていただく機会になりました。人権の問題はこれからもずっと、いろいろな運動や阻止という形で、様々な取り組みが行われていくものなのではないかと感じているのですけれども、今の小学生・中学生に、人権ということの深みと意味合いなどがわかりやすく、どういうことなのかというところから、まず理解を深めていきながら、自分はそこでどのような考えをもつのかというところまで、小中学生のうちに備わるといいなと思っております。そういう意味では、羽田小の研究発表会は、教員の皆様が本当にいろいろなところで考えながら、とても工夫された授業をされていたなという印象を持ちました。

それから出雲小学校、こちらは公開授業でした。スクールサポートが各学校に設置されていますが、そのスクールサポートの力がとても大きく反映されていまして、歴代学校に関わる方たちがたくさんお見えになっており、とても地域性の豊かな学校、愛校心がとてもある方たちに囲まれた学校で、子どもたちを育てているなという印象を受けました。

この出雲小学校の公開授業では、展覧会を行ってございました。これまでにPTAのほうでも幾つか様々な学校の展覧会を拝見させていただいておりますけれども、こちらでは、図工科の力というか、図工科の教員の指導力というのがとてもあらわれる展覧会だなと感じました。どの学年のどの作品も、とてもちょっと一味工夫が凝らしてありまして、今まで私が見た展覧会の中では初めての作品、という作品にたくさん出会うことができました。

公立の小学校・中学校での専科の先生方の力というのは、統一まではいかないのですけれども、ある程度のレベルの指導力が必要なのではないかなと思っております。やはり、公立の小学校・中学校ですので、学校によって、例えば表現する場だったり、子どもが発信する場において、あまりに学校によってちょっと違うなというふうに感じるのもどうかなという印象でした。どの学校も、先生方がいろいろな授業を行ってございますので、やはりそれぞれの良いところと改善すべきところがあるのですけれども、ある程度の先生の指導力というか、提供力が必要だと思うのです。研究を今後もやっていき、力を付けていくといいなと思いました。

図工科専科の先生方も、学校によって色々だと思いますので、例えば、講演会や勉強会で先生方の意見交換という場をつくって差上げるのも、今までもあるにはあるのですけれども、やはりその定着といいますか、深みをちょっと広げていくのも今後の課題の一つかなと感じました。

昨日の池上会館で行われましたおおたの教育研究発表会、こちらも行かせていただきました。とても難しいテーマで研究をされた学校の発表でした。研究内容と成果の発表としましては、大変深みのある意義のある授業を行っていただいて、発表も、先生方が、様々な視点を凝らして、子どもたちを指導していただいていたのだなと感じました。

分科会では、糺谷中学校と池上第二小学校、自己肯定感の育成で研究をされた学校の分科会に参加してまいりました。

池上第二小学校では、読みの力について、指導課長のほうからもお話がありましたが、いろいろな時間と空間を使って読書に力を入れたのですよというお話がありました。分科

会では、教師と保護者と一緒に協議をしました。池上第二小学校では、本の冊数での目標達成数の発表がありました。高学年では何冊、中学年では何冊、低学年では何冊ですというふうになっていたのですが、低学年は多いのですが、高学年に向けて冊数が非常に少なくなっている結果だったのです。それが、割と冊数に幅があり、低学年はたくさん読んでいます、中学年はそこそこ読んでいます、高学年はちょっと少ないかなというような結果でしたので、冊数を目標にすると、低学年では簡単で文字の大きい本を何冊も読みたいといったところで冊数が増えていくこともありますので、ページ数で示したらどうですかというような保護者からの意見がありました。

やはり読書の中身についても、池上第二小学校の先生から、新聞でも雑誌でも、興味のあるところから入ってほしい、とにかく文字を読んでほしい、冊数・ページ数に関しては、今後、課題として取り上げていきますというお話だったのですが、ぱっと見、保護者の目からすると、冊数が高学年に向かって減っていくのは、やはり勉強が忙しくなるからかなとか、塾とか習い事がたくさん増えてしまうから本が読めなくなってしまうのかしらというふうを受けとめる方もたくさんいますという保護者のお話もありました。その辺も学校の中で取り組む際に、どのような目的、位置付けにするのかというところを定着させていけるといいのかなと思っています。

駅伝は、その日都合が悪くて参加できなかったのですが、やはり北村夢選手という、とても素晴らしい大田区の子どもたちに近い年齢のお手本の選手がおりますので、こちらは、子どもたちも実践として、本当にお手本を間近に見ながら駅伝というところに取り組めた、また、日ごろの練習も、とてもたくさん励みにしながら頑張れたのではないかなと思っていますので、今後とも、このような子どもたちになるべく近い年ごろというか、年齢層のお手本になるような子どもたち、また大人たちがたくさん増えるといいなと感じております。

私のほうからは以上です。

## ○教育長

ありがとうございます。

それでは、お願いいたします。

## ○鈴木委員

それでは、私のほうから、雑駁ですが、感想を含めたお話をさせていただきたいと思えます。

まず、味の素スタジアムについての駅伝大会についてお礼を申し上げたいと思います。日ごろから非常に長い期間、皆さん練習を積んでこられたということで、それには、様々先生方が日々頑張っておられたのだということだと思えます。

そして、会場が若干遠くて毎年大変だなと思っていて、常々寒い時期なのですが、非常に頑張っておられ、成績も徐々に毎年上がっていくということが頼もしい限りでございます。これについては関わった皆様、先生には、特にお礼を申し上げたいと思います。

そして、研究会のほうでございますが、私の感想ですが、小学校から中学校へということで、先生が小学校の校長先生のみならず、中学校の先生も小学校の研究会にご参加いた

だいているということは非常にうれしいことだと感じました。会場にいらしている先生からお声をかけていただいたり、ありがたいなと思いました。常に、様々な研究会が、300から350人とか380人とかの参加があり、大勢の他区からの先生もおいでになっているということで、学校によっては非常に関心度が高い内容もあり、今ですと、一つはオリンピック・パラリンピックの教育を生かしたものに関心度が高いのだと感じました。

後藤委員のほうからもお話しがありましたけれども、羽田小学校のパラリンピアン講演についても、通常ですと皆さんなかなかお会いできない方の、日常生活でのお話をいただいたり、非常に楽しくお話を聞かせていただきました。先生がここまで頑張っているのだということ、ぜひ地域の方にも知っていただきたい、サポートなどで関わっている人、あるいは地域の町会長さんなどの代表者だけでなく、一般の地域の方々が多くそれを目にさせていただくとありがたいなとつくづく思っておりました。参加者がたくさん増えていくということはどういうことだと考えております。

各校が様々な研究をいたしていますが、今大変なのは、ICTを使った教育をどうするかということ、非常に皆さん熱心に研究なさっているわけですが、それに明るい先生、そうでない先生いらっしゃるわけですし、各先生のご努力が目に見えております。これからも、お互いに指導力の向上を図っていただければ、ありがたいなと思っております。よろしくどうぞお願いします。

## ○教育長

ありがとうございます。委員の先生方から、いろいろな角度からお話をいただきましてありがとうございました。

東京駅伝につきましては、体力向上ということの一つと取り組みが成果を上げている、または、研究発表会につきましては、学力向上ということですね、大事な教育の柱のところの着実に成果を上げつつあるというところが、委員の先生方からはご指摘いただけただかというふうに思います。ありがとうございます。

それでは、次の日程に移りたいと思います。日程第2について、事務局員の説明を行います。

## ○事務局職員

日程第2は、「議案審議」でございます。議案を読み上げます。

「第3号議案 平成28年度おおた教育振興プラン2014の事業実績と評価について」でございます。ご審議よろしくお願いたします。

## ○教育長

それでは、事務局から説明をお願いいたします。

## ○教育総務課長

それでは、第3号議案 平成28年度おおた教育振興プラン2014の事業実績と評価についてご説明いたします。着座にてご説明させていただきます。

大田区の教育の重要施策を取りまとめましたおおた教育振興プラン2014では、プランの

実効性を高めるために、毎年、事務事業の実績について、点検評価を行っております。お手元の資料は、各事業の平成28年度の点検評価結果を報告書としてまとめたものでございます。また、本件の点検評価結果につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の第26条に義務づけられております、教育に属する事務に関する点検及び評価として取り扱うものでございます。

報告書は2枚おめくりいただいて1ページをご覧ください。評価につきましては、中ほどの表の判定基準に記載してあるとおり、計画を上回る進捗があった事業を4、計画どおりに進捗があった事業を3とし、進捗におくれがあった事業は、その程度により2①から1②までの4段階に分けております。

その下、平成28年度対象事業の評価結果ですが、28年度は88の事業について評価を実施しております。その表の右側、評価欄をご覧ください。88事業の内訳が記載されております。85事業は計画どおりの進捗がございましたので評価を3としたところでございますが、評価が2①となったものが2件、2②が1件ございました。

まず、2①、計画期間を通して段階的に取り組む事業で進捗におくれ、変更があったが、計画期間中には回復することができるとした事業について申し上げます。こちらは、いずれも学校施設の工事に関するものでございます。報告書の33ページをご覧ください。

33ページの下の方でございます。大森第四小学校の改築工事でございます。進捗がおくれた理由は、既存校舎の外壁仕上材にアスベストの含有が確認されたことに伴いまして、実施設計及び仮設校舎建設工事の完了に2カ月程度の遅れが生じたことによるものでございます。

もう一つは、次の34ページの上にあります入新井第一小学校の改築工事でございます。進捗がおくれた理由は、複合施設の調整に時間を要したため、基本構想基本計画の策定が3カ月程度おくれたことによるものでございます。

いずれも計画全体の進捗には影響ございません。今後も工事担当部局と連携し、適切な進行管理に努めてまいります。

次に2②、毎年度、反復継続する事業で、当該年度には進捗におくれ変更があったが、次年度以降の計画への影響は生じないとした事業について申し上げます。38ページをご覧ください。

家庭・地域教育力向上支援事業でございます。本事業は、家庭や地域における子どもの教育に関わる講演会や学習会を、PTAや自主団体等に委託し、実施するものでございます。年間50団体で講演会や学習会を開催することを目標としているところでございますが、近年、実施団体の減少が見られ、平成28年度の実績は22団体の実施にとどまりました。今後も効果的な事業の実施方法等について検討を進めてまいります。

また、このたびの点検評価につきましては、今後の教育施策の参考とするため、学識者からの視点として、玉川大学客員教授の宮島雄一先生、それから保護者からの視点とし、元小中学校でPTA会長を経験された浅見悦弘氏、また生涯学習スポーツからの視点として総合型スポーツクラブの理事長をされています桑田健秀氏、以上3名の方よりご意見をいただいております。巻末の59ページ以降に掲載させていただいております。3名の方からは、おおむね計画どおりに進捗したことに対して評価をいただいているところでございますが、主な意見を何点かご紹介させていただきたいと思っております。

宮島氏からは、60ページの1番下にございます職場体験活動について、中学2年生、三日以上の職場体験は自己の将来を見据えた豊かなキャリア教育につながるだけでなく、地域の産業や商業活動の現状を知る意味で非常に重要です。本事業は、中学生の自己有用感や自己肯定感の醸成にもつながる大変効果的な事業と考えます。今後に期待しますとのことです。

また、62ページの1番上、小中学校理科授業力向上研修についてご意見をいただいております。東京工業大学との連携のもと、基礎的な理科実験の技量等の指導力を高めるなどの研修は、世代交代が進み、若手教員の増加に伴う指導技術の低下に歯止めをかける一助となっています。今後とも、これに類する有効な研修の強化に期待します。私たちが想像する以上に理科離れは急速に進行しているものと推察されます。特に小学校は全科教員であり、授業に活用できる具体的な指導技術の研修・啓発の実施を期待しますということでございます。

次に浅見氏からは、63ページの真ん中にございます。外国語教育指導員派遣について、ご意見をいただいております。指導員を学年別にそれぞれ学習時間を増やししながら、英語に触れるよい授業だと思えます。低学年は少ない時間で、高学年になれば多い時間を設け、無理のない進行がなされています。この授業の継続による定着化が進むことを願います。段階的に実施時間が延長されているのも評価できます。

また、その下、日本語特別指導及び日本語学級についてでございますが、国際化による帰国子女や外国人の日本在住者は増加傾向にあり、日本語の理解に苦勞する生徒は多々存在すると思えます。専門の指導員が日本語特別指導を行い60時間後も希望者には同様のサービスが受けられる内容はとてもよい事業だと思えます。また、教える側の先生方が、日本語指導検討委員会を設け、改善事項を協議されていることもよい点と考えます。といったご意見をいただいております。

最後に桑田氏からは67ページの1番上に記載しておりますとおり、新体力テストの点数で小学6年生のポイントが向上したことは大変よいことだと思えますが、小中学校全体でアップしていかないといけないと思えます。中学校の体力は、全般的に各項目で全国平均を下回っているとも聞いております。早急な対応が必要ではないかと考えます。特に運動嫌いの中学生が全国的に見ても相当数いるとのこと、ゴールデンエイジのときに適正な運動を行える環境づくりが必要だと思えます。

小中学生の駅伝大会は評価しますが、イベントとして終わるのではなく、大会に参加してしない生徒も含め、年間を通して楽しく行えるスポーツや運動の場をつくることも重要と考えます。例えば放課後での子どもの居場所づくりでの時間を積極的に利用して、適切な運動プログラムを取り入れたらと考えます。といったご意見をいただいたところでございます。

第3号議案の説明は以上でございます。

なお、本定例会にてご決定いただければ、2月26日及び27日に開催されるこども文教委員会にて、議会報告をさせていただきます。また、議会報告後はホームページに掲載し、区民の皆様に公表するとともに区立小中学校に本報告書を配付し、このたびの点検評価を教育委員会全体で共有をしてまいりたいと考えております。

よろしくご審議のほど、お願いいたします。

## ○教育長

ただいまの説明に対しまして、ご質問、またはご意見はございますでしょうか。  
三留委員。

## ○三留委員

資料の1ページに評価の概要が書かれているわけですがけれども、3が85件、2①が2件、2②が1件ということで、有識者の意見にもありましたけれども、おおむね大田の教育が充実した形で行われているということだと思います。で、この2②は、工事に関わること、2①についても、進行管理をしっかりして行けば、改善できるということで、そういったことも改善を図っていただければいいのかなと思います。

4の判定がここにはないのですけれども、やった結果、今、花開いている事業というのは幾つかあるのかなと思います。その大きなのが、先ほどから話題に出ているICTの活用ということで、ページでいきますと27、28ということになると思います。27、28、ここにICTの機器の導入の検討というのが一つありまして、28ページにはモデル校実施ということで、こういうことを着実にやって、先ほどお話のあったようなICTの活用が、今、充実した形で進んでいるということになると思います。

それからもう一つは、11ページに道徳教育の充実というのがあります。道徳教育推進教師の協議会であるとか、指導資料の活用というのがあるのですけれども、小学校では、この4月、来年度から道徳科がスタートいたします。中学校はその翌年度という形で、道徳科がスタートするという中で、こういう準備をされたということはとてもいいことだなと思います。こういうことが、各学校の指導体制づくりだとか授業改善ということにつながると思います。道徳授業地区公開講座は、何校かおじゃましてはいるのですが、やはりそれぞれ工夫して取り組んでおり、道徳の授業改善にも大変役に立っているのではないかなというふうに感じます。

個々のことについて、若干感想を述べたいと思います。

3ページの学習カルテに基づいた学習カウンセリングということで、これについては、一人一人ということですね、全体ではなくて、一人一人の基礎学習、基礎基本の定着に大変有効な活動だと思いますので、一層充実をお願いしたいというふうに思いました。

それから、日本語指導の話は、国際都市おおたという中で、大変必要な活動であるし、各校の校長、指導者にも大変喜ばれている活動だと思います。こういったところで育った子が、多文化共生であるとか交流などの場面で、また活躍しているといいのではないかなというふうに思いました。

それから、12ページの問題行動対策の充実を図りますということで、問題行動対応サポートチームの配置ということで、私が知る限りで、この問題対応サポートチーム、大変よくやっているという印象がありまして、本当に各学校の中に入って、各校の課題解決に役立つ活動、本当に親身になってやっているというふうに思いますし、各校の校長からも聞いておりますので、一層の充実を図っていただきたいというふうに思います。

それから、14ページの教育相談員の学校訪問・ケースの支援というのがありまして、これについては、新しい学習指導要領の総則に「不登校児童・生徒の配慮」という項目が入

りまして、これは一層重要な活動になっています。情報提供とか助言だとか、そういった役割を発揮しているかということになります。総則には、「不登校児童・生徒の実態に配慮した教育課程の作成」ということも明示されていて、このあたり、すぐにできることではないと思うんですが、課題として考えていただけるといいなというふうに思います。

それから、15ページ、その隣、スクールソーシャルワーカーの活用ということで、基本的に計画どおりの進捗があったとありますが、私が聞いている限りでは、学校によってスクールソーシャルワーカーの理解だとか活用とか、そういうところに温度差があるということも聞いています。宮島先生が60ページのスクールソーシャルワーカーの活用ということで、意見を言われていますけれども、ここにも、「より活用しやすいシステムの構築と学校への啓発に期待します」とあります。やはりスクールソーシャルワーカーの活用については増員ということなのですが、一層学校への啓発と、そして、活用の仕方をしっかりやっていくということが大切なのかなと思います。

それから、あまり長くなってしまうので、あと二つぐらいにしたいと思いますが、体育・健康教育授業地区公開講座の実施ということで、24ページにありますけれども、これは大分定着してきたのではないかなと。近年、近々の取り組みなのですが、大分定着してきたというふうに思います。各校の特色ある取り組みがいろいろできてきたのではないかと。子どもがシンポジウムに参加するなんという取り組みも聞きましたので、いろいろなやり方で啓発活動をしていただいているのではないかなというふうに思います。

他にもあるのですが、では、最後ということで、最後の、何ページでしたか、47ページから51ページまで、生涯学習に関わる取り組みの一層の充実というようなことが書いてあるのですが、私は生涯学習というのはとても大事なことだと思いますし、区民と、区民をも支援して、区民のいろいろな生涯活動をケアする取り組みをこれだけやっているということはとてもいいと思いますので、ぜひこれからも充実していただきたいなと思います。

以上です。

## ○教育長

ありがとうございます。

他にいかがですか。では、後藤委員。

## ○後藤委員

後藤です。私からは、二つ意見を述べさせていただきます。

一つ目は、まずこちらのアクションプランでは、蒲田小学校・中学校で行われた日本語教室、日本語学級の件です。こちらを見ますと、有識者の方の意見のところ、63ページです。ここに、日本語指導検討委員会を設け改善事項を協議されていることもいい点と考えますとあります。日本語指導検討委員会はとても有意義な会だと、私も聞いております。それで、教える側の先生方がまず勉強をして、それを子どもたちに指導していくということは、実践として一番大切なことである上に、やはり日本人として、正しい日本語を使うということが、まず前提として、とても大切なことだと思っております。

先日の功労者受賞者の先生方のご意見の中からも、教員室での言葉遣いがちょっと気になりますというお話もありました。子どもに指導する教師、また、近くにいる地域の大人

が、まずきちんとした日本語を使って、子どもたちが正しい日本語を日々聞き流す教育と  
いいますか、聞きながらやはり指導を受けて、学んでいくというのがとても大切だなとい  
う点から、日本語指導検討委員会の充実をさらに深めていけるといいなと思っております。

蒲田小学校・中学校で行われている目的としましては、やはり地域性から、外国の子ど  
もたちが日本語を使っての授業に苦勞しないように、サポート的な形で日本語を指導して  
いこうという目的で立ち上がっている学級だと思うのですが、私が意見を申させていただ  
く点としましては、今もちょっとお話をしたのですけれども、まず日本語をきちんと話す  
という教室も、次にアクションプランに入れていってはどうかなというふうに思ってお  
ります。

ある小学校では、2年前ぐらいだったと思うのですが、美しい日本語を使うためにとい  
う総合学習の時間の中に劇団四季の方たちを招いて、きちんとしたまず発声から、日本語  
をどういうふうに話すときれいな言葉が使えるんですよといったような、とてもわかりや  
すい、小学生にきちんと落とし込める取り組みを行っている小学校もありました。

全体的に大田区の小中学校が、そのような日本語学級というか、日本語の講習会とか講  
座とか、総合の時間か国語科の時間なのだと思いますが、きちんとした日本語を話しまし  
ようという取り組みも必要かなと思っております。それとともに、外国人の子どもたちに  
日本語をサポートできる取り組みを行っていければいいのかなと思っております。

二つ目は、38ページになりますが、家地教の件です。家庭・地域教育力向上支援事業、  
これを家地教とPTAのほうでも呼んでおりますが、私もPTAで活動していた際に、P  
TA会長さん、副会長さんが集まる勉強会があるのですけれども、そちらで、ぜひ講習を  
してくださいと言われて、頼まれたことがありました。まず、実績としてどの程度学校が  
行っているのか、また行えない理由は何なのかという調査をいたしました。そうしまし  
たら、やはり何をしたいのかわからないし、どの程度のものをやったらいいのかわから  
ないといったことでしたので、私が在籍していた学校の資料を提供いたしまして、皆さん  
にお配りして、こういった形や方法で、こういう内容のことをやっていますよという話を  
させていただきました。私が在籍、子どもたちが在籍している学校は、毎年毎年、それこ  
そこの事業の取り組みが始まってから、ずっと途絶えることなく続いておりますので、や  
はり学校の中で、毎年やるものなんだというような、毎年やるととてもいいですよとい  
うような傾向が各学校にあらわれると、あ、今年もやろうというように受けとめる、実際  
に行う委員さん方は毎年変わるのですけれども、委員会の引き継ぎの中で、こういった方  
法や形で、こういうふうにやるといいですよという流れができるといいのかなというお  
話をさせていただきました。

家地教については、やはり教育委員会のほうでも、実績で団体数とすると50団体できる  
枠の中で22団体しかできていないので、これからどんどんやっていただきたいですとい  
う方向性だと思うのですが、やはり細かく周知するというか、各学校にわかりやすく周知し  
ていく必要があるのかなと思っております。

毎年毎年やる学校では、本当に種類も豊富でして、例えば、震災のときにどうしたら実  
際に命が守れるのかといったことを、アドバイザーの先生をお呼びして、レジ袋があつた  
ら、子どもを肩に背負えるとか、ジーパンがあれば、例えばだっこができるのかという実



実践として教えていただいたりする講座が、とても人気でした。まず子どもも自分の命を守る、大人も自分の命とともにそばにいる子どもの命をどうやって守ったらいいのかとかという講座とか、実践につながるような講座が、とても皆さんにわかりやすく、今日この講座を聞いてよかったなというふうに帰っていただいた思いがあります。家庭・地域教育力向上支援事業は、地域の方と保護者とが一緒に、一つの目標を持って講座をするという、まず種を探すというか、種類を探していくのが大変だと思いますので、そのところで、細かく皆様に理解の幅を広げていけるような機会が何かしら設けられたらいいのかなと思っています。

私のほうからは以上です。

#### ○教育長

他にご意見、ご質問はありませんでしょうか。よろしいですか。

それでは、第3号議案について、原案どおり決定してよろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

#### ○教育長

第3号議案について、原案どおり決定いたします。

これをもちまして、平成30年第2回教育委員会定例会を閉会します。

(午後3時閉会)